

映画「60万回のトライ」を観て

正直に言うと観る前は、大阪朝鮮高級学校（大阪朝高）ラグビー部を撮った映画だとは聞いていたものの「いわゆるスポ根ものなんでしょ」という先入観からあまり気乗りがしませんでした。

しかし。確かにスクリーンの中ではラグビー部員たちが「花園」での優勝を目指して戦い笑い涙する、汗と熱気に溢れた「青春映画」でもあったのですが……。

朴思柔（パク・サユ）

在を鋭く掘り下げておられます。朝高の公式戦出場が認められていなかった父親たちの時代、二〇〇七年に東大阪市によって提訴された「グラウンド裁判」、そして二〇一〇年の高校授業料無償化からの朝鮮学校の適用除外、大阪府による補助金凍結。

橋下府知事

（当時）は、ベスト4に進出した大阪朝高を訪れ「誇りに思います。頑張ってください」と生徒たちに笑顔振りまいておきながら、その日のうちに補助金凍結を発表。本当に許し難い行爲です。



ラグビー部の金寛泰（キム・ガンテ）主将は、授業料無償化をめぐる記者会見の中で「ラグビーはノーサイド精神だから」と言います。試合が終われば敵味方なく交流し友情を育むという、ラ

グビー文化です。またラグビー部の監督である呉英吉（オ・ヨンギル）先生は、部員たちに「スポーツは社会を変える」と話されま

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

クでも、「日の丸」を掲げたり顔にペインティングしたりする観客の行為がやたら目につきました。

昨今このようなスポーツと排外主義・国家主義の結びつきに辟易するところが多かったのですが、それをものともせず凛々しく清々しく超えていくノーサイド精神を、この映画は教えてくれました。そして今高校授業料無償化・補助金問題を考えるとき、この社会においてノーサイド精神をいかに具体化できるのか私たちが日本人に問われているのだと思います。

南労会支部・H



サンタマリアに乗って「日中友好の碑」訪ねる

―もちつき実行委員会・春の遠足―

四月二〇日(日)、もちつき実行委員会主催の春の遠足があった。

今年は、帆船型観光船サンタマリア号で大阪港を周遊したあと、天保山公園にある「日中友好の碑」を訪ねるといふ、豪華かつ勉強になる企画であった。

かなたに「あべのハルカス」と通天閣

天保山の大観覧車下に集合して、コロンプスのあのサンタマリア号に乗船する。

安治川をUSJ付近ま

でさかのぼってから、河口に向け方向転換。

咲洲(さきしま)手前の水路を、府庁が入るコスモタワーを右に見て、港大橋をくぐる。すると、右に港湾労働者を不要にした大型コンテナ埠頭、



左に急勾配の「ベタ踏み坂」の「なみはや大橋」はるか前方に「あべのハルカス」と「通天閣」が見える。

家具のイケア前で折り返す、四五分の船旅であった。

大阪港にも、たくさん中国人を強制連行

下船後、元総評港地協議長の有元幹明さんの案内で、天保山公園に。

公園入口にある歌川貞升(うたがわさだます)の浮世絵「浪花天保山風景」などを見ながら、江戸時代に、安治川の川底

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう!